令和４年第17回教育委員会会議（定例会）録

１　日時

令和４年９月13日（火）10時00分

２　場所

教育委員会会議室

３　出席者

教育長：石橋正信

委　員：町孝、原志津子、武部愛子、西村早苗、徳成晃隆

事務局：福田教育次長、深堀理事

中尾総務部長、江﨑教育環境部長、奥田部長（学校施設アセットマネジメント担当）、木下指導部長

早川総務課長、平川教育政策課長、髙田教育環境課長、中山施設課長、石橋学校企画課長

赤坂経済観光文化局文化財活用部文化財活用課調査普及係長

４　会議事項

⑴　付議事項

付議案第59号　附属機関委員の人事について

⑵　臨時代理報告事項

なし

⑶　協議・報告事項

協議・報告ア　令和４年度全国学力・学習状況調査の結果について

協議・報告イ　令和４年度第１回文化財保護審議会について

協議・報告ウ　箱崎中学校の移転に関する検討状況について

５　開会

教育長開会を宣告　10時00分

付議案第59号は人事に関する案件のため、協議・報告イは意思形成過程の案件のため、協議・報告ウは議会に報告する案件のため、議決により非公開とされた。

６　付議事項

▼付議案第59号　附属機関委員の人事について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第６項の規定により原委員退室

髙田課長より説明

《原案どおり可決》

7　臨時代理報告事項

なし

8　協議・報告事項

▼協議・報告ア　令和４年度全国学力・学習状況調査の結果について

石橋課長より説明

〔質疑等〕

（町委員）

○　この調査の目的は、義務教育の機会均等、水準を維持することであるが、知識に関する問題と活用に関する問題ということで、知識も大事であるが、一番力を入れるところは活用であって、私も大学で20年以上教えてきたが、その時一番言ってきたのはどう活用できるか、知識そのものは、今はインターネットがあるから簡単に調べることができるが、それをどうやって活用していくかが大事だということを申し上げてきた。先ほど説明いただいた中で、資料の42ページのところに問題があって、教育委員会としてもかなり検討されていると思うが、１点気になったのは、資料28ページから31ページまでの児童生徒への質問と、学校の先生方への質問のところで、いくつかは全国平均より良いものもあるが、大半は全国平均より下回っていること、また、児童生徒の認識と先生方の認識でかなり乖離がある。ここが気になったところで、これから教育委員会としてどのように取り組んでいくかが大事だと思う。もちろん、コロナ禍で苦労していることは分かるし、いろいろ大変だとは思うが、福岡市だけでなく全国的にそうだと思うので、課題を見つけて取り組んでいただきたい。また、資料40ページ41ページのICTの使い方の問題について、ICT機器をどの程度使っているかという質問に対して、月１回程度という回答が多かったが、授業中に調べる場面で月に１回程度しか使っていないという率が高いので、どのような授業をしているのかと気になった。改善していきたいとの説明があったので期待したいが、週１回程度の割合が少ないと感じたがそのあたりはどうか。

（石橋課長）

○　知識と活用の問題について、全国調査は、令和元年度から知識と活用を一体化した出題となっている。その中で特に傾向としては、活用に関する問題が多くなっていると感じている。また、資料28ページから31ページまでの指摘について、上部分は子どもたちの意識で、例えば、資料28ページについて説明すると、国語は子どもが自分の考えを作り上げていく項目、書く、話すといった自分の考えを作っていく項目、算数は答えを導き出すためにしっかりと筋道を立てて考えていく項目、また、理科は実験や観察をしっかりした上で考察していく項目に課題が

ある。中学校についても同じことが言える。この辺りが授業づくりについて、子どもがしっかりと問題を発見して、調べて、考えを作っていく、いわゆる問題解決的な学習、ここをしっかりと授業構築する必要があると考えている。また、資料40ページ、41ページのICTに関することについて、子どもが自分で調べる活動は多く行われていることが読み取れる。ただし、その調べてきたことを友達と対話したり情報共有したり、いわゆる話し合い活動をする場面が少なくなっている。対話的な授業をしっかり行っていくことを大事にしていきたいと思っている。

（徳成委員）

○　資料26ページの「①上回っている」から「④努力を要する」までについて、福岡市は都市型で学校間の学力格差がとても大きく、あまり大きな変動は起きていないと考える。特に中学校は今回、「④努力を要する」学校数がかなり増えている。この辺りの原因はどこにあるのかという問題や、また、学力低位の子どもたちをどのように引き上げていくのかについては、分かりやすい個別の指導や家庭学習のやり方をどのように教えていくかといった様々な課題がこれまでもあったし、今も現場の先生方は頭を悩ませているのではないか。福岡市は、ICTが一斉に導入され、ICTを活用した授業がどうあるべきかいう模索が続いている中で、子どもたちの学力向上にどうつなげるか悩ましいところではないだろうか。質問だが、学び合いの学習法が、この間全国的にも広がり効果があると期待されたわけだが、福岡市の中で特に学力向上に効果をあげている学校や学習法で顕著な例があれば教えていただきたい。

（石橋課長）

○　資料26ページについて、特に中学校は昨年度と比べて③、④が多くなったが、原因の一つは、昨年度が非常に良かったということがあって、そのギャップを感じている。また、家庭学習等については、これまでの「ドリルをしっかりやりなさい」といった形式的な練習的な家庭学習のあり方から、子どもたちが授業で学んだことや明日学ぶことなどといった復習、予習を充実させていく工夫が、今後は大事だと思っている。また、学び合いについては、例えば東光中学校などでしっかり行われているが、学び合いの学習は教師の力量が必要であって、勝手に子どもたちがわいわいやっていたのでは学び合いにならないと思っている。教師が意図的にグルーピングをしたり発言を取り上げたりして、しっかりコーディネートしながら子どもが考えを作っていけるような、クラスで答えをまとめていけるような授業づくりが大事だと思っている。特に、ICTの環境として整備された、プロジェクタやタブレット端末を使いながら、子どもたちが情報共有していくことが大事である。

（徳成委員）

○　分析した結果やそれぞれの学校現場の状況などが十分把握できていない部分があるだろうが、全国的なところでいうと、北陸、東北の上位の県が、家庭学習の

仕方を学校で丁寧に子どもたちに教えて、学力定着がみられたという分析を見た。福岡市でいうと特に上位校は、塾の学力もあるわけで、塾に通えない子どもたちが多くいる学校はどうすればよいのかとなったときに、これまで福岡市で行った学び舎の取組、これが今コロナ禍でできていないが、学校によっては近隣の大学や高校とコラボしながら子どもたちの学力向上に向けた独自の取組をしているところもあったはずだ。子どもたちに学び方を教えていかなければ、低位の子どもたちはなかなか上がっていかないのではないかと考える。今後、そういった独自の取組を全市的に広げていきながら全体的に引き上げを図る必要があると考える。

（武部委員）

○　先ほどから教科ごとにどう深めていくかという話があるが、私は幼・小・中・高・大の子どもたちと関わりがあるので、年齢が低いうちに「それで？」というもう一歩先の質問をしていく、それをやって考えるチャンスを提供するほど学年が上がっていったときに、考える力、思考力に明確な差が出てくる。年齢が低いうちに頑張れている、数字で表れる知識や勉強のプラスアルファの「それで、それからどうする？」、「それで何で？」というもう一歩先の質問を心がけていただけると、中・高とどんどん考える能力が増えてくる実感がある。また、今こうやって平均値が出ているが、各学校差、学校の中でもクラスによっても違う。どこかでデータ処理をする途中で、もっと小さいレベルでのことは分からないのかということがあって、我々は大学で講義をしていれば学生からの授業評価があって、今年の授業はどうだったのか、何が分からなくて、何が面白くて、どこがよかったのかという学生の声が分かる。そして必ずそれに対する改善策を書かなければならないようになっていて、学生のタイプやいろいろなことがあるが、教員側が振り返るチャンスになっていて、福岡市全体の大きな数値だと実感が先生方にはないと思う。もし数字を出す過程や、別個にでも、実感として自分の授業や教え方を振り返ることができるようなものをもらえると、イメージが現実的になると思う。資料42ページの今後の課題について、私は職業柄、全体のことで気になっているのは表出不足、子どもたちが自分の考えや気持ちを言語にして表すということが不健康になっている、弱点になりつつあることが感じられるので、これができないと相手と分かり合うことは無理になってくるので、学力に通じるかどうかは分からないが、勉強の中でもそういうチャンスを、気持ちを表すよりも考えを伝える方がまだやりやすいと思うので、勉強の中で少し意識して取り入れていただけると、将来的に子どもたちがきちんとやりとりのできる人に育っていくと思う。

（原委員）

○　資料32ページについて、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」について、中学校の数字が低くなっているのは、自分で計画を立てるという視点、自分の弱点を

知っている、ここをきちんと補っていくことは、学力を確保する意味では大事で、ここが表れているのだと思う。また、資料35ページについて、小学校国語の無回答率が高いのは、記述などが書けていないのかもしれないが、意欲というか、自分の考えをまとめて書こうとする姿勢といったところが小学生の段階で低いということは気になった。また、資料38ページの主体的・対話的で深い学びに関する質問項目について、学校質問紙も児童質問紙も「自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」という質問に対する回答が、全国平均と比べて福岡市がかなり低くなっていることは、小学生の時点で、自分で取り組む、自分の考えを表現していく姿勢について対策が必要だと思った。また、資料42ページの教育委員会としての取組みについて、「『授業改善推進プラン』を基に、指導主事による各学校への指導・助言を行い」とあるが、今回の結果についてはどのように各学校に伝わっていって、「授業改善推進プラン」に反映されるのか。

（石橋課長）

○　武部委員の発言にも関係しているので順にお答えする。各学校では、それぞれ教員が自身の教育活動を学校で自己評価する活動を毎学期しており、その中で、例えば、子どもが先生をどうみているかといった授業評価も含めて実施しているところもあって、その辺りを教員自身が自覚していけるような評価活動が必要であると考えている。また、「授業改善推進プラン」について、今年度、各学校の「授業改善推進プラン」に、教員一人ひとりが授業について10項目ほどの中身で自己評価したものを記入するようにしている。それを各学校でまとめて、事務局に提出させ、学校訪問した際に、教員の意識や授業の在り方も含め、しっかりと指導助言していきたいと考えている。今年初めて自己評価の項目を入れているので、その辺りをしっかりみながら取り組んでいきたい。また、武部委員ご指摘の、子どもたちにもう一歩先の質問をすることについては、授業もそうだが、普段の、日常的なトラブルがあった際などに教員が答えを出すのではなく、「なぜこうなったのか？」、「どうすれば良いと思う？」といったことを日常的に考えさせる、特に小さいうち、１年生、２年生のうちに粘り強く考えさせていくことを日常的に取り組むことも大事であると思う。

（西村委員）

○　参観などで教室の雰囲気を見させていただいた際に、「次はどう？」、「その次はどう？」と一人ひとりに声をかけている先生がいて、子どもたちの興味がよく伸びているというのを感じることがあった。積極的に学習に導かれるような先生方のリードで大きく変わってくると思う。

（石橋教育長）

○　いろいろなご意見をいただくことができたので、それらも踏まえて今後の対応を検討していきたい。

▼協議・報告イ　令和４年度第１回文化財保護審議会について
赤坂係長より説明

▼協議・報告ウ　箱崎中学校の移転に関する検討状況について
中山課長より説明

９　閉会

教育長閉会を宣告　10時58分